

今週のメニュー

■トピックス

◇「PVC Design Award 2015」展示会

－東京・名古屋・大阪・福岡の展示会で、大賞はじめ受賞作品を紹介－

PVC Design Award 事務局

■随想

◇生涯現役1 「農作業三昧」その1

日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事 大内 功

■編集後記

■トピックス

◇「PVC Design Award 2015」展示会

－東京・名古屋・大阪・福岡の展示会で、大賞はじめ受賞作品を紹介－

PVC Design Award 事務局

昨年11月16日の「PVC Design Award 2015」の発表・表彰式に続いて、全国各地で受賞作品・製品を展示し、多くの方々には作品を見ていただきました。

今回は、例年より表彰式を1月程遅く開催したため、東京以外は今年になって開催しました。11月19日から2日間、恒例となっている東京六本木のAXISビル地下1階シンポジアでの展示会を皮切りに、今年1月25－26日の2日間大阪地区のメルカート会館、1月28日に名古屋地区で三協化成産業(株)、最後に2月2日に九州地区として福岡市のアクロス福岡で開催しました。デザイナー、主催団体関係者など総勢350名の方々に来場いただき、今年も盛況のうちに展示会を開催することができました。

各会場では、22点の受賞作品の他、約50点の製品応募作品、186点のデザイン提案を展示しました。毎年恒例の風景になりましたが、受賞された方が家族と一緒に来られ、作品の前で記念写真を撮られたり、他の作品を興味深く見ておられました。



東京（AXISビル）



大阪（メルカート会館）



名古屋（三協化成産業）

最近では、受賞作品から毎年何点か商品化されるものが出てきています。今年も、デザイナーとコラボし試作した作品とデザイン応募の中から数点づつが既に商品化の検討がされていると聞いており、ビジネスへの展開が進むことが期待されます。

各地域では経済産業局の方々にもデザインアワードを紹介しており、作品の商品化に向けた各地域の補助金制度などをご紹介いただいています。そうした情報交換の中から、大阪の展示会には、近畿経済産業局の内海参事官が、またアクロス福岡での展示会では、九州経済産業局の岸本局長が来場され、作品を一つ一つ熱心に観察され塩ビ製品の多様さに驚かれておられました。また、特に防災関連作品のアイデアに「なるほどそういう使い方があるのか」などと大きな関心を示されておられました。



福岡（アクロス福岡）（写真右、右から3人目：岸本局長）

海外からも頼もしい知らせが届いています。一昨年[本メルマガ No.486](#)で韓国の塩ビ工業・環境協会（KOVEC）がPVC Design Awardを計画していると紹介しましたが、11月のAXISでの展示会に来日され、韓国でも塩ビ製品の普及を図るため、塩ビのリサイクル品のデザインアワード Korea PVC ECO Design Award 2015を実施したと教えていただきました。私達の取組が海外に広がっており、うれしいニュースでした。

少しずつですが毎年アワード作品の中から新しく商品化されるものが出てくるようになり、塩ビ素材が徐々に広がりを見せていると感じています。このPVC Design Awardを通じて塩ビ業界が益々元気になり、アワードを契機に新しい塩ビ製品が多く生まれることを、関係者一同願っています。

■ 随想

◇生涯現役1 「農作業三昧」その1

日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事 大内 功

高齢化社会を迎え、健康、医療・介護、年金、生き甲斐、尊厳死など、多くの課題があります。「健康で、楽しく何かに取り組みながら生涯を過ごしたい」が多くの方の望みと思えます。仕事、社会貢献・ボランティア活動、何かライフワーク、農業、ゴルフ、旅行、趣味（私の場合は囲碁）を活かすなど、この中の何かに励みながら健康で過ごすこと、これが「生涯現役」と自己解釈しており、それを目指しています。

長年、製造会社に勤め、環境・安全の重要性、或いは難しさを認識したこともあり、「環境」或いは「環境・安全」をライフワークとして取り組みを継続したい、これをベースに、農業を中心に、環境に係わるボランティア、環境・安全に係わる活動、事故・トラブル防止に向けた組織のリスクセンスを鍛える活動などを行っています。これらの活動の状況、考え方の一例を紹介し、皆さまのご参考にしていただければ幸いです。

家庭菜園の始まり

鎌倉に移り住んで早 30 年、住まいは鎌倉山と笛田公園に挟まれた斜面を新たに開発した分譲地で通称「萩郷」(笛田)といわれる住宅地内で、周囲は林、農業緑地、田がまだ残り、閑静を通り越した「まさに田舎」です。以下農業への係わり合いを紹介いたします。若い時は企業戦士として、家庭や地域のことは家内任せで、過ごしてきたことから、地域との係わり合いを持たねばとの気持ちが増していったころです。

移転後暫くして近隣の鎌倉山に約 150 坪の空地を紹介され、見に行ったことが農業へのきっかけとなりました。その空地は女優の後藤久美子さんの祖母の隣地で結局はゴクミの事務所が管理することとなりました。家内が以前に知り合いだったことも幸いし、後藤さん(母親)が「当分使用予定はないので、自由にお使いください」とのご好意から、農業(家庭菜園)にのめり込むこととなりました。

かなりの間放置されたため、萱など大きな草で荒れ放題、耕すのには苦労しました。畑での収穫と一杯やることを口実に、技術部の若手数名(今は部長・・・)に残りの土地の開墾を手伝ってもらったこともありました。晴れた土日は朝から出かけ、そこで昼食、時に一杯、3 時ぐらいまでは汗を流していました。

収穫物は自家消費、近所の方へ配り、時々後藤さんへ宅急便や隣のおばあちゃん経由で送付しました。作物は虫に食べられた野菜ですが、無農薬野菜であることから喜ばれました。これらの農作業を通して、終日草取りをしても、さほど苦にならない自分に気づき、結構お百姓向きかなと再認識しました。

有機栽培への挑戦

この家庭菜園でのこだわりは有機農法で、沖縄で開発された EM 菌を使用し 20 数年、家庭の生ゴミは全てコンポスト化し畑に戻しています。また、鎌倉市では、植木の剪定ゴミを回収・堆肥化して市民に配っており、早朝、関谷の植木剪定材堆肥化事業場、笛田リサイクルセンターに取りに行きます。最近では家庭菜園を楽しんでいる人が多く堆肥の確保も競争となっています。

無農薬を標榜し、葉の間の虫を探し手で潰していますがなかなか追いつかず、被害は甚大で特に白菜、キャベツについた虫には泣かされています。シートで覆えば良いのですが、現実には完全無農薬とはいかず、一部幼苗の生育の時、茄子などの新芽が虫に食べられると成長不能となるので、少量の殺虫剤を散布しています。ところで、横浜のエス・ディー・エスバイオテック社へ監査に伺った時に家庭菜園の話になり、無農薬で苦労していることを話したら、工場の安全担当から響きをかかったことが思いだされます。「今の農薬は有害性が低く使用しないとほとんどない」と帰りには収量を上げるようにとダコニール(うどんこ病、べと病、疫病に有効)を頂き、たまに使用しています。

収穫の楽しみ

種や苗はもちろん自家製(購入と前年収穫した種)を主としていますが、かなりの苗を仲間からいただいています。秋・冬の収穫では、キャベツ、白菜、ブロッコリ各 50 本、大根 150 本、春夏の収穫では、たまねぎ 1000 本、空豆 100 本ぐらい植え結構大規模です。その他、いも類、きゅうり、ピーマン、なす、トマト、オクラ、人参、絹さや、にんにく、葉ものではほうれん草、小松菜、京菜、チンゲン菜など数えだすときりがないくらい。収穫が終わると土地を休ませず、直ぐに次の作物を植えることが多く、土地の疲弊をいかに防ぐか、その対策として堆肥の製造・確保が課題となっています。

収穫物を近所の皆さん、仙台の親戚に配りながら地産地消、旬産旬消を楽しんでいます。

この菜園は数年前に宅地化されましたが、更に近い遊休地約 200 坪を無償で借り今まで同様に励んでいます。一番の問題は水源が傍にないことで、古いバスタブを 3 個確保し、水を貯めていますが、夏は水不足、ポリタンクで水運びに追われています。また住宅地では毎年 3 月末に萩郷公園で花見会を催します。この時のつまみの一品がわが収穫物で、菜花、春菊、ブロッコリのお浸し・胡麻和えなどが恒例となり、自己満足の世界となっています。



※ 現在の活動

- ① 農業ボランティア：旬彩旬消をモットーに家庭菜園とボランティア活動 30 年
 - ② 環境マネジメント研究会活動幹事 21 年（日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事）
 - ③ 事故・トラブル防止に向けた活動：9 年（LCB 研究会・リスクセンス研究会理事）
 - ④ レスポンシブル・ケア検証員：スタートから参画、13 年
 - ⑤ グリーン&セーフティ鎌倉（代表）環境・安全コンサルタント業 7 年
- 《趣味》囲碁（自称 4 段）：地元自治会で、師範として囲碁指導中

（つづく）

次回は、生涯現役 2 「農作業三昧」その 2 です。

■ 編集後記

今週は、木曜日が「建国記念日」の祝日でしたので、金曜日に発行となりました。

年頭に 1 年分のスケジュールを確認しますが、今年は、「山の日」「秋分の日」「文化の日」とあと 3 回同じパターンがあります。（「こどもの日」は GW で休刊）

毎年、祝日が同じ曜日に集中していることがあるのかも知れませんが、我が事にならないと意識しないものですね。（漠）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp

